

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

廣田里子、伊藤和憲、勝見泰和. 高齢者の慢性腰痛患者に対するトリガーポイント鍼治療の試み-同一筋上に存在するトリガーポイントと圧痛点の刺激効果の違いについて- 明治鍼灸医学 2006; (38): 19-26. 医中誌 Web ID: 2008088212

1. 目的

高齢慢性腰痛患者に対する同一筋上でのトリガーポイント (TrP) と圧痛点での鍼刺激効果の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法、cross over) (RCT-envelope, cross over)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科外来、京都、日本

4. 参加者

腰痛を6か月以上訴え、筋力検査や深部反射など神経学的検査に異常のない高齢者6名 (男性4名、女性2名、平均年齢66.3歳±7.9歳)。

5. 介入

Arm 1: A 群 (3名)。TrP 治療→圧痛点治療。

Arm 2: B 群 (3名)。圧痛点治療→TrP 治療

トリガーポイント部位は、腰部と股関節を他動運動し疼痛が誘発される筋の索状硬結上での圧痛部位。圧痛点はトリガーポイントと同様に罹患筋を特定し単なる圧痛のみ誘発した部位。治療は、1回/週で、各治療3回の計6回。両治療ともステンレス鍼 (0.16×40mm) を筋肉まで刺入、得気に関係なく10分間置鍼。刺激部位数は共に8-12か所。

6. 主なアウトカム評価項目

痛みについての Visual analogue scale (VAS) を治療開始前、各治療1週間後の計7回測定。Roland Morris Disability Questionnaire (RMDQ) を治療前、3回目と6回目の治療1週間後に実施。

7. 主な結果

痛みのVASに関して、治療前後の改善幅はArm1のほうがArm2より減少幅は大きかったが、両治療の効果に明らかな違いはなかった。RMDQは、両治療群ともに点数の減少はあったが、明らかなQOL改善はなかった。

8. 結論

高齢慢性腰痛患者の痛みに対して、トリガーポイント鍼治療と圧痛点鍼治療は共に有効であるが、2つの治療に効果の差はない。

9. 鍼灸学的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、鍼灸臨床において最も頻度の高い主訴である腰痛に対し、臨床上、一般的な治療法である圧痛点治療に対してトリガーポイント治療を比較した研究として有意義である。本論文は、先行研究である「廣田ら. 慢性腰痛患者を対象としたトリガーポイント治療と圧痛点治療の比較対照試験-高齢者9例に対する予備的研究-. 全日本鍼灸学会雑誌 2006;(56):68-75.」を基に同一筋に対して2つの異なる治療をcross over法で試みたものである。RCTの質的としては、対象者の募集期間、研究時期、研究期間、wash-out期間の設定がないこと、また、症例数が少なく有効性の統計学的検討が不十分であること等が課題として挙げられる。その他、トリガーポイント鍼治療を習熟するにはある程度の訓練が必要(考察で述べ、参考文献もあり)とある一方で、臨床歴1年の鍼灸師1名を治療者としている。今後これらの点を改善し、さらなる研究の発展が期待される。

12. Abstractor

下市善紀 2011.9.11